

Title	旧約のs□neと新約のβάρτοςのドイツ語訳について： LutherとZwingli以降の例証に基いて
Sub Title	
Author	角谷, 善朗(Kakutani, Yoshiro)
Publisher	慶應義塾大学法学部
Publication year	2008
Jtitle	慶應の教養学： 慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集(2008.) ,p.231- 263
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Book
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=BA88455348-00000012-0231

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

旧約の *sene* と新約の *Bátos* の
ドイツ語訳について

— Luther と Zwingli 以降の例証に基づいて —

角谷 善朗

- I 序
- II Luther 訳聖書原典
- III Luther の Predigten über das 2. Buch Mose 及び Die Schmalkaldischen Artikel
- IV Zürcher Bibel 原典
- V Busch の語義
- VI die Cansteinische Bibel
- VII Goethe と Schiller
- VIII 1912 年改訂の Luther 訳聖書
- IX Zürcher Bibel 改訂版
- X 1956 年改訂の Luther 訳新約聖書と Die Bibel in Auswahl mit Erklärung (1961)
- XI 1964 年改訂の Luther 訳旧約聖書
- XII 1975 年改訂の Luther 訳新約聖書と Canstein-Bibel (1978)
- XIII 1984 年改訂の Luther 訳新約聖書
- XIV Altes und Neues Testament in neuer Einheitsübersetzung

I 序

先に旧約のヘブライ語原典の s^{ne} と新約のギリシア語原典の βάτος の訳出の問題を、Luther と Zwingli について調査して報告⁽¹⁾ を済ませた。

本稿は、この問題に関して、18 世紀初頭の die Cansteinische Bibel、更に Goethe と Schiller、そして Luther 訳聖書原典及び Zürcher Bibel 原典の現代語改訂版について調査した結果の報告である。そしてそれに加えて、s^{ne} (βάτος) の実体についても、現在まで識り得た凡そを取り上げているのである。

さて s^{ne}⁽²⁾ は、出エジプト記に 4 例あって、何れもシナイ山上で神がモーセに現われた場面で用いられている。また、申命記では、モーセが死に臨んでイスラエルの同胞を祝福する言葉のなかで 1 例が得られる。

そして βάτος⁽³⁾ は、マルコ伝とルカ伝の双方で、死者の復活はないとするサドカイ人の問いに対するイエスの答のなかで、1 例ずつ得られる。そして使徒行伝で、使徒ステパノが、イスラエルの人々は、預言者たちを迫害し続けて、今やイエスを殺害してしまったことを厳しく糾弾した説教のうちで、2 例が求められるのである。

イエスもステパノも、自らの発言が旧約聖書の教えに些かも悖るものではないことを証す拠り所として、出エジプト記で神がモーセに現われた件^{くだり}を引用しているのであって、ここで都合 4 例の βάτος が用いられているのである。

βάτος はまた、Septuaginta⁽⁴⁾ と呼ばれている七十人訳ギリシア語聖書においても、出エジプト記で 4 例、申命記で 1 例が用いられているのである。Septuaginta は、ヘブライ語原典の本文よりも古い時期に由来する写本を底本としているのであるが、原典よりも遙かに広い範囲で読まれたのである⁽⁵⁾。

新約のギリシア語原典と Septuaginta の両書において、βάτος は s^{ne} に対応する同義語として用いられているのであるから、βάτος は s^{ne} に対する最も適切な表現として選ばれたと見做すことは疑う余地がないのである。

次いでラテン語訳聖書は、カトリック教会においては、長きに亙って絶対視されていたのであって、原典よりも遙かに重んじられて来たのである。そしてラテン語訳聖書のうちで別けても、聖 Hieronymus に依って改訂され、

その後も改訂が重ねられた Vulgata⁽⁶⁾は、標準聖書として承認されるに至って、今日においても最も高い評価を得ているのである。なお Vulgata の旧約の部分には、Septuaginta の重訳ではなく、ヘブライ語原典の直接訳が収められているのである⁽⁷⁾。

本書においては、5例の s^{ne} と 4例の βάτος に、一様に rubus が当てられているのである。

Vulgata と共に Erasmus に依るラテン語訳新約聖書も必見の調査文献である。本書は Erasmus が編纂して、1516年に刊行したギリシア語新約聖書⁽⁸⁾に収められているものであって、Erasmus に依る註解も添えられているのである。

因みに Erasmus 編纂のギリシア語新約聖書は、Luther 訳新約聖書 (1522年)、次いで Tyndale 訳新約 (1525年) 更に The Authorised Version (欽定訳) の新約 (1611年) の底本として、原典からの翻訳聖書の成立に、正に重要な役割を担ったのである。

ところで、Erasmus 訳のラテン語新約の語彙は、42.4%が Vulgata のものとは異なっていると指摘されている⁽⁹⁾ ことから察せられる通りに、Erasmus の訳業は、Vulgata に追随したものではなく、Erasmus 独自のギリシア語原典の緻密な研究の所産である。

とはいえ、Erasmus においても、4例の βάτος には、Vulgata と同じく、rubus を対応しているのである。

併し乍ら、Erasmus の新約のラテン語訳からは、s^{ne} に直接に対応しているラテン語の表現を得ることは叶わぬことであった。にも拘わらず、Erasmus も βάτος に rubus を当てていることと βάτος は s^{ne} と同じ意味を担っていること、そして Vulgata において、s^{ne} と βάτος の双方に rubus が対応していることを勘案すると、s^{ne} と同義のラテン語には、rubus が適切な表現であるとして、何等問題はないと思われるのである。

そこで、古典語の s^{ne}、βάτος、rubus の3語は、互いの意味上の関連に関して、次の通りに図示することが出来るのである。

$$\begin{array}{c} \text{s}^{\text{ne}} = \text{βάτος} \\ \quad \quad \quad \diagup \quad \quad \diagdown \\ \quad \quad \quad \text{rubus} \end{array}$$

但し、s^{ne}、βάτος、rubus の3語が表わしている具体的な意味については、

後述することにして、V章で取り上げることにしたい。

II Luther 訳聖書原典

Martin Luther (1483 — 1546) のドイツ語訳聖書は、従来のラテン語訳聖書からの重訳に代わって、新約はギリシア語、旧約はヘブライ語の原典からの直接訳の嚆矢となった画期的な訳業であると共に、ドイツ語に共通語が成立するための礎ともなって、最も重要な役割を果たすことになった⁽¹⁰⁾のである。

Luther の聖書翻訳は、新約の部から着手されて、1522年9月に初版・九月聖書 (Septembertestament) が刊行された。旧約の部の翻訳と刊行は、分冊の形式で進められて行ったのであって、翌23年7月にモーセ五書の部が刊行された。旧新約聖書が刊行されたのは、1534年9月⁽¹¹⁾のことである。

Luther 訳聖書の原典⁽¹²⁾の初版において、先ず新約の4例の βάτοςには揃って Busch が、次に旧約の5例の s^{ne}にも一様に Busch が対応されているのである。

さて Luther は先ず新約、次に旧約を訳出したのであるが、Busch の例証を挙げるに当たって、時間的に先行する記述から引用することにするので、旧約から始める次第である。

Vnd der Engel der HERRN erscheyn yhm, ynn eyner fewrigen flammern aus dem pusch, vnd er sahe, das der pusch mit fewr frandte vnd wart doch nicht verzeheret vnd sprach, Ich wil dahyn vnd besehen bis gros gesicht, warumb der pusch nicht verbrennet.

Da aber der HERR sahe, das er weg gieng zu sehen, rieff yhm Gott aus dem pusch vnd sprach, Mose, Mose, Er antwort, hie byn ich, (1523. 2. Mose3, 1-4.)

Der gutte wille des der ynn dem pusch wonet, kome auff das heubt Joseph, (1523. 5. Mose 33, 16)

habt yhr nicht gelesen ym buch Mosi, bey dem pusch wie Gott zu lhm saget vnd sprach, (1522.¹ Mark. 12, 26)

Das aber die todten aufferstehen, hatt auch Moses deutet bey dem pusch, (1522.¹ Luk. 20, 37)

erscheyn yhm ynn der wusten auff dem berge Sina, der Engel der herrn ynn eyner
flammen des fewrs ym pusch, (1522.¹ Apg. 7, 30)

den sandte Gott zu eynem vbirsten vnd erloser durch die hand des Engells, der yhm
erscheyn ym pusch, (1522.¹ Apg. 7, 35)

Luther は生涯を通じて、聖書翻訳に携わって、改良に努めて改訂を重ねて
行ったのである。そして改訂は、語の綴り、語形、語法、語彙に及んでいる
のであって、表現上の多岐の面に互っているのである。

とはいえ、旧約と新約の最終版、即ち 1545 年の旧約においても 5 例の
Busch、1546 年の新約においても 4 例の Busch は、1 例も新たな訳語に言い
換えられていないのである。綿密な改訂が繰り返されたにも拘わらず、最終
版に至るまで、9 例が揃って保持されているのであるから、Luther は Busch
を的確な訳語と見做していると解されるのである。

VND der Engel HERRN erschein jm in einer fewrigen Flammen aus dem Pusch, Vnd
er sahe, das der Pusch mit fewr brandte, vnd ward doch nicht verzeret, Vnd sprach, Jch
wil dahin, vnd besehen bis gros Gesicht, warumb der Pusch nicht verbrennet. Da aber
der HERR sahe, das er hin gieng zu sehen, rieff jm Gott aus dem Pusch, (1545. 2. Mose
3, 2-4.)

Die gnade des der in dem Busch wonete, kome auf das heubt Joseph, (1545. 5. Mose
33, 16)

habt jr nicht gelesen im buch Mosi, bey dem pusch wie Gott zu jm saget, vnd sprach,
(1546. Mark. 12, 26)

Das aber die Todten auferstehen, hat auch Moses gedeutet bey dem pusch, (1546.
Luk. 20, 37)

erschein jm in der wüsten auff dem berge Sina der Engel des HERRN, in einer
fewrflammen im pusch. (1546. Apg. 7, 30)

den sandte Gott zu einem Obersten vnd Erlöser, durch die hand des Engels, der jm
erschein im pusch. (1546. Apg. 7, 35)

III Luther の Predigten über das 2. Buch Mose 及び Die Schmalkaldischen Artikel

Luther の著述のうちで、出エジプト記の神がモーセに現れた件を取り上げているものは、Predigten über das 2. Buch Mose と Die Schmalkaldischen Artikel の 2 点である。

Predigten über das 2. Buch Mose⁽¹³⁾ は、1524 年から 27 年に掛けて、ドイツ語或いはラテン語で行われた出エジプト記についての説教集であって、ドイツ語の部では、出エジプト記 3 章 2・3 節の全訳と使徒行伝 7 章 30 節の抄訳も収録されているのである。

Luther は訳出に当たって、s^ene と βάρος の双方に、聖書の場合と同じく、Busch を当てているのであって、都合 4 例が用いられている。

Und der Engel des HERRN erschein im in einer feurigen flammen aus dem pusch, und er sahe, das der pusch mit fewer brante und ward doch nicht verzeret, und sprach: Jeh wil dahim und besehen dis gros gesicht, warumb der pusch nicht verbrennet.

Denn Actorum 7. sagt Stephanus auch, das uber viertzig jar Mosi in der Wüsten auf dem Berge Sinai der Engel des HERRN in einer feurflammen des puschs erschienen sey.

そして、der Feuerige pusch とキリスト教の教義の体系との結び付きを詳しく説いている説教のなかでも、14 例の Busch が求められるのである。

ラテン語の部では、ドイツ語の der Feuerige pusch に関する説教と内容が相通ずる説教のなかで、rubus が得られるのである。このことは、Luther において、rubus と Busch は同義であると解されていることを実証するものである。

次に、Die Schmalkaldischen Artikel. (シュマルカルデン条項) 1537. 1538.⁽¹⁴⁾ は、シュマルカルデン同盟の信仰を固く結束するために、Luther が執筆したものであって、本書の懺悔の部において、s^ene に対応している Busch を 1 例求めることが出来るのである。

Denn Gott wolt auch Mosi erst durch den feurigen Pusch und mündlich wort erscheinen.

IV Zürcher Bibel 原典

Ulrich Zwingli (1484 — 1531) は印刷業者 Christoph Froschauer の依頼に応じて、Luther 訳聖書に代わる新しい翻訳聖書として、新たに古典語の原典に忠実に、且つまた Zürich 及び他の州の市民の言葉に即して平明に、訳出した Zürcher Bibel⁽¹⁵⁾を完成したのである。

Zürcher Bibel が完成したのは、1529 年であって、2 部に分けられて、第 1 部は同 29 年に、第 2 部は翌 30 年に出版されたのであった。Luther の Die ganze Heilige Schrift が刊行されたのは、1534 年であったのであるから、本格的な旧新約聖書の発行は、Zürcher Bibel が先んじることになったのである。

さて Zürcher Bibel においても、出エジプト記 4 例、申命記 1 例の s^{ne} と、マルコ伝 1 例、ルカ伝 1 例、そして使徒行伝 2 例の βάτος は、何れも Busch と訳出されているのである。

Vñ der engel des HERRN erscheyn jm in einē fheürigen flamēn aus dem pusch. Vnnd er sahe das der pusch mit fheür dran / vnd ward doch nit verzeert / vñ sprach: Jch wil da hin / vñ besehen dis gros gesicht / warumb der pusch nit verbrünne.

Do aber der HERr sahe / das er hinweg gieng zů sehē / rufft jm Gott aus dem pusch / (1531. 2. Mose 3, 1-4.)

Den gūten willē des der in dem pusch wonet / mache koñnen auff das haupt Joseph / (1531. 5. Mos 33, 16)

habend jr nit gelāsen im bůch Mosi bey dem puschen / wie Gott zů im sagt / (1531. Mark. 12, 26)

Das aber die todten aufferstond / hatt auch mozes bedeütet bey dem pusch / (1531. Luk. 20, 37)

erscheyn jm in der wūste auff dem berg Sina / der Engel des Herren / in einē flañen des fhürs im pusch. (1531. Apg. 7, 30)

den selbenn sandt Gott zů einem obersten vñ erlöser durch die hand des engels / der jm erscheyn im pusch. (1531. Apg. 7, 35)

Zürcher Bibel は Luther の訳業に追従していない、新たな綿密な訳業であって、宗教改革期のドイツ語訳聖書のうちで、Luther 訳聖書と並び称されているのである⁽¹⁶⁾。

それ故に、Zürcher Bibel においても、Luther 訳聖書と共通して、Busch を s^{ne} と βάτος に対応しているのであるから、この点は正に注目に値すると言うことが出来るのである。

V Busch の語義

s^{ne} と βάτος と rubus の 3 語は、先に図示した通りに、互に書き替えることが出来る関係にある。そこで 3 語それぞれの具体的な意味を当たると、s^{ne} は、Dornstrauch, eine Brombeerart⁽¹⁷⁾; a thorny bush, perh. blackberry bush⁽¹⁸⁾ の意味であって、βάτος も Dornstrauch, Dornbusch⁽¹⁹⁾ の意味であるので、この 2 語は共通して、刺の有る束生の低木を表わしていることが確かめられるのである。そして rubus は、Brombeerstrauch⁽²⁰⁾; prickly shrub, the bramble⁽²¹⁾ の意味であるから、s^{ne} と βάτος と相通じる有刺の束生する低木であることは諒解されるものの、低木のうちの特定のもの、即ち木莓に対応するラテン語であることは、特筆に値することである。この点を鑑みると、s^{ne} 並びに βάτος の同義語として対応出来るラテン語の表現としては、rubus よりはむしろ vepres (= Dornbusch) 或いは sentis (= Dornstrauch⁽²²⁾) のほうが適切であるという思いを禁じ得ないのである。

とはいえ、Luther は rubus を受け入れて、出エジプト記についての説教集のラテン語の部において、rubus を用いているのである。

さて Luther 訳聖書原典及び Zürcher Bibel 原典においては、旧約の s^{ne} と新約の βάτος の訳語としては、専ら Busch が用いられているのである。併し乍ら、Busch の語意が、dicht gewachsener Strauch⁽²³⁾ である通り、s^{ne}、βάτος そして rubus は一様に有刺であるのに対して、刺がない点^が、Busch

の属性の一つとなっているのである。

Luther は、出エジプト記についてのドイツ語に拠る説教集において、*der Fewerige pusch* を取り上げているのであるが、説教は、キリスト教の教義の体系との繋がりを詳細に説くことを主眼としているのであって、*Busch* の形状などについての具体的な事柄については、一切触れていないのである。

そこで、Luther 並びに Zwingli が軌を一にして、*s̄ne*、*βάτος* 更に *rubus* に対応している *Busch* について、実際の形状が問われることになるのであるから、この点に関して、各種のドイツ語辞典に記述されている諸家の見解を、逐一明らかにして行くことにする。

先ず、Luther 及び Zwingli より以前の時期の MHD における、*busch*、*bosch* の意味を探ると、M. Lexer の中高独語辞典⁽²⁴⁾ (1872 — 78 年刊) に依れば、*busch*、*gesträuch* の意味を担っているのである。

そして例証のうちに次の 1 例が含まれている。

in einem brinnenden boschen Swsp. 215, 30. Wack. *pr.* 65,75. Mart. 24^c. 67^b.

この 1 例は 3 冊の文献に出典を求められるのであるが、2 番目の出典は、*Altdeutsche predigten u. gebete*, herausg. v. W. W. (= W. Wackernagel) (*in aushängebogen benutzt*)⁽²⁵⁾ であるので、旧約の *der brennede Busch* と深く係わっていることは、疑う余地はないと思われるのである。

次に J. Ch. Adelung の辞典⁽²⁶⁾ (1793 年刊) においては、*Ein aus niedrigem Gesträuche oder so genanntem Unterholz bestehendes Gehölz* という語釈に加えて、*Niedersächsisch* で専ら使用されているのであって、*Hochdeutsch* では *gebüsch* が一般的であることを述べているのである。

聖書に由来する表現は取り上げていないが、*Schwabenspiegel* においては、*Dornstrauch* の意味を担って用いられている用例があるという記述は、検討に値するものである。

第 3 冊目の J. H. Campe の辞典⁽²⁷⁾ (1807 年刊) の語釈は、*Ein aus niedrigem Strauchwerke oder sogenanntem Unterholze bestehendes Gehölz* であるから、Adelung の見解に沿っているものであると推測され、聖書に由来する表現に

は言及していないのである。

第4冊目は Grimm の辞典⁽²⁸⁾ (1860年刊) である。本書においては、busch は通常 laubiges gesträuch の意味で用いられているのであるが、聖書の場合は Βάρος 及び rubus に対応して、dornstrauch の意味を担っていると説明している。そしてそれを証す例証として、Luther 訳原典から 10 例の Busch の用例を挙げているのである。

その 10 例は、出エジプト記 3 章 2 節の 2 例と申命記 33 章 16 節、そしてマルコ伝 12 章 26 節、ルカ伝 20 章 37 節と使徒行伝 7 章 30 節、35 節の都合 7 例に、更にヨブ記 30 章 4 節、7 節とイザヤ書 7 章 19 節の 3 例を加えたものである。

ヨブ記の 2 例の原語は śiah、イザヤ書の 1 例の原語は nah^alōlīm である。この 2 語のドイツ語訳も問題になるが、これについては、既に調査を行なって報告を済ませている⁽²⁹⁾ のである。

Grimm の辞典には、Busch が Dornstrauch に対応している例証を、聖書以外の他の文献からも引用している。そのうちの次の 1 例は、最も重要であると目されるものである。

Moisi in dem busch. Keisersb. sch. der pen. 50^b

この例証の出典は、Keisersberg, Joh. geiler v. (1445 — 1510) の das schiff der penitentz vnd büßwürckung, gepredigt...zũ Stroßburg von...Johann Gayler von Kaysersperg, in teütsch gewendt vom latin auß seiner aygnen handtgeschriffit Augsburg 1514⁽³⁰⁾ である。

第5冊目は D. Sanders の辞典⁽³¹⁾ (1860年刊) である。本書は Grimm の辞典と同じ年に出版されているのであるが、Busch について、eine sich am Boden allseitig ausbreitende, dicksteknde Pflanze と説明している。例証のうちに、Der brennende, feurige Busch 2. Mos. 3, 2ff. も挙げているものの、Dornstrauch との関連については、全く言及していないのである。

第6冊目の Ph. Dietz の Wörterbuch zu Dr. Martin Luthers Deutschen Schriften⁽³²⁾ (1870 — 72年刊) においても、出エジプト記 3 章 2 節及び使徒行伝 7

章 30 節の 2 例を含む都合 7 例の Busch に対して、一様に *gesträuch* を対応しているのである。

Busch の語源の説明に当たって、Grimm の辞典を参照していることを明らかにしているにも拘わらず、聖書の Busch の語義に関する Grimm の見解については、全く触れていないのである。

なお Luther の Busch の表記について、bei Luther überall *pusch* geschrieben と指摘している。然るに、申命記 33 章 16 説の *pusch* は、1545 年の版においては、Busch に表記が改められているのである。

Die gnade des der in dem Busch wonete, kome auf das heubt Joseph, (1545. 5. Mose 33, 16)

第 7 冊目は M. Heyne の辞書⁽³³⁾ (1890 年刊) である。本書の Busch の語釈は、Busch は *rubus* に対応して、*Dornstrauch* の意味を担っていると説明しているのであるから、Sanders 及び Dietz の語釈としては異なるものであって、Grimm の見解と相通じるものである。

使徒行伝 7 章 30 節及びイザヤ書 7 章 19 節の 2 例を例証に加えて、*der einzelne laubige Strauch namentlich der Dornstrauch* と述べて、有刺である点を明示しているのである。

第 8 冊目は Weigand / Hirt の辞典⁽³⁴⁾ (1909 年刊) である。本書は *Recht-schreibung* の記述に重点を置いているので、語釈は *Strauchwerk* を挙げるにとどまって、例証は添えていない。

第 9 冊目は A. Götze の辞典⁽³⁵⁾ (1939 年刊) である。本書においては、Busch が担っている意味のうちで最も古い意味は、*Strauch*、特に *Dornstrauch* であることを、出エジプト記 3 章 4 節の 1 例を例証に加えて、説いているのである。

そこで Götze の見解は、Heyne 並びに Grimm の見解を勘案した上で、新たにまとめ上げたものであるから、取り分けて注目に値するものである。

第 10 冊目は *Frühneuhockdeutsches Wörterbuch* 第 4 巻第 3 分冊⁽³⁶⁾ (2001 年刊) であって、Busch の語釈は、J. Schildt が執筆している。

busch、bosch の語義として、20 例の例証を添えて、Strauch, Gebüsch, Gehölz, Wald を挙げている。例証のうちには、出エジプト記 3 章 2 節に関連している用例が 3 例含まれている。3 例は何れも 15 世紀のものであって、3 地域の方言、即ち Thüringisch, Ostmitteldeutsch そして Nordoberdeutsch の例証として引用されているのである。

v. Liliencron, Dür. Chron. Rothe 28, 19 (thür., 1421): *In dissen gezeiten sso erscheyn got Moysi ynn dem bornenden pusche.*

Jahr, H. v. Mügeln 72 (omd., Hs. 1463): *das für tet nicht dem busche we / den Moises sach brinne vor.*

Gille u. a., M. Beheim 262, 26 (nobd., 2. H. 15. Jh.): *Her Moises wundert ach, do er vor im sach ston/den pusch an schaden prinnen.*

Luther の例証に関しては、1 例を挙げるに止まって、ドイツ語訳聖書原典のものは、全く取り上げていないのである。併し乍ら、参考文献のうちに、Ph. Dietz の辞典⁽³⁷⁾が含まれているのであるから、同書に示されている見解を受け入れて、Luther 訳原典の Busch についても、gesträuch と同じく刺がない Strauch 或いは Gebüsch と解釈して、特に取り立てるには至らなかったと推測されるのである。

次いで第 11 冊目から第 15 冊目までは、H. Paul の辞典の初版と改訂版の 4 冊である。

まず初版⁽³⁸⁾、改訂第 4 版⁽³⁹⁾そして改訂第 7 版⁽⁴⁰⁾においては、何れも Busch の語釈に、*einzelner Strauch* を挙げているのであるが、例証は添えていないのである。

改訂第 9 版⁽⁴¹⁾に至って、Luther 訳原典から出エジプト記 3 章 2 節を例証として挙げているものの、語義は *eingelner Strauch* であるので、これ迄の版に示れた諸家の見解に沿って、刺がない低木と見做していることを疑う余地はないのである。

次の改訂第 10 版⁽⁴²⁾(2002 年刊) は、*Bedeutungsgeschichte und Aufbau unseres Wortschatzes* を副題としていて、改訂を施している事項も見受けられる。

但し、Busch に関しては、前の改訂第9版の記述を保持しているのであって、語義或いは例証には聊かの補足・修正も加えていないのである。

以上15冊の辞典を参照して、諸家の Busch の語義についての見解を調査検討してみると、諸家の解釈は、詰まるところ、Busch を有刺とするか、或いは刺はないとするかという点で、大別されることになるのである。

全15冊の辞書のうちで、Frühneuhochdeutsches Wörterbuch 及び H. Paul の辞典の改訂第10版の語釈は、最も新しい研究の所産として、特に注目されると共に、而も最新の Luther 訳現代語改訂版（1985年刊）よりも後に刊行されたにも拘わらず、何れも有刺には触れることなく、専ら Strauch (Gebüsch) と解しているのである。

各々の辞典の例証のうちで聖書に係わるものの出典は、Luther 訳原典のほかに都合5点の文献（Lexen に1点、Grimm に1点そして Schildt に3点）であって、Zürcher Bibel 原典からは全く引かれていないのである。とはいえ、Zürcher Bibel 原典の Busch についても、有刺と取るか否かが、問題になるのは多言を要しないところである。

VI die Cansteinische Bibel

さて、Luther 訳原典及び Zürcher Bibel 原典の刊行の時から、近代を経て、現代に至るまでの約450年の間に、刊行の時期のドイツ語とそれ以後のドイツ語との間に差異が生じて、時を経るに従って、その度合は次第に大きく、且つ複雑なものになって来たのである。更にまた、古典語原典の本文批評並びに聖書解釈学の研究の進捗に依って、多くの問題点が解明されて来たのである。

そこで、ドイツ語の時間的変遷の諸段階において、各々の時期のドイツ語の現状並びに聖書学の研究の成果を踏まえて、Luther 或いは Zwingli の訳業に改訂を加えて、一般大衆が理解し易い、且つまた古典語原典の原文に忠実な訳文を提供しようとする動きが高まって来たのである。そこで改訂が試みられる度に、その改訂の結実として、新たな改訂版が刊行されて来たのである。

とはいえ、20 世紀に至るまで刊行された Luther 訳原典の改訂版は数多いが、そのうちで、文字通り本格的な改訂版の嚆矢となったのは、die Cansteinische Bibel である。

die Cansteinische Bibel に収められた改訂の成果のうちには、20 世紀に入って刊行された各種の Luther 訳現代語改訂版において、順次受け継がれているものもあるのであるから、die Cansteinische Bibel は、19 世紀末までの Luther 訳改訂版のうちで、最も高く評価されているのである。

die Cansteinische Bibel⁽⁴³⁾ は、敬虔な Carl Hildebrand Freyherr von Canstein (1667—1719) が、経済的に恵まれていない人々に聖書を廉価で提供するために、世界で初めて設立した Cansteinische Bibelanstalt から出版された Luther 訳改訂版であって、1713 年に先ず新約聖書、1717 年に旧新約聖書が刊行されたのである。

die Cansteinische Bibel の刊行に先立って、1703 年に Stade の神学者 Dieckmann は、Luther 訳旧新約全書に改訂を加えて、die Stadische Bibel を出版している。因みに Dieckmann が改訂の底本とした Luther 訳原典は、明らかにされていないが、照合調査に依って、1546 年の版の旧新約聖書であると特定した次第である⁽⁴⁴⁾。

die Cansteinische Bibel の訳文は、die Stadische Bibel の訳文を叩き台として、古典語原典の原文及び 5 点の Luther 訳原典の訳文を綿密に参照して、検討を重ねて、正確にして且つまた平明な訳文を目指した改訂⁽⁴⁵⁾の所産である。入念な改訂は更に語彙にも及んでいるのであって、18 世紀初頭のドイツ語において、最早用いられなくなった単語及び単語としては使い続けられているものの、Luther の時期の意味は既に担っていないものは、現状に即した適切な単語に差し替えられているのである⁽⁴⁶⁾。

斯くして成立した die Cansteinische Bibel は、一般大衆が容易に求めることが叶えられたので、版を重ねて、1804 年までの発行総部数は、およそ 300 万冊⁽⁴⁷⁾と推定されるのであるから、Luther 訳聖書が ein wirkliches Volksbuch⁽⁴⁸⁾と成るのに、極めて重要な役割を果たしているのである。

さて、die Cansteinische Bibel の調査テキストは、1797 年刊の第 101 版の旧新約聖書の訳文である。とはいえ、Cansteinische Bibelanstalt に依る改訂活動

は、設立時に先ず新約の部、次に旧約の正典及び外典の部の改訂を完了した時点までであって、それ以後に再度改訂を試みることはなかったのであるから、調査の対象とした die Cansteinische Bibel における新約の訳文は 1713 年刊の新約聖書の初版の訳文、そして旧約の正典及び外典の訳文は 1717 年刊の旧新約聖書の初版に収められた訳文と同一のものなのである。

Luther 訳原典において、終始一貫して 5 例の *s'ne* と 4 例の *βάτος* に対応している都合 9 例の Busch は、die Cansteinische Bibel においても保持されているのである。

2. Und der engel des HErrn erschien ihm in einer feurigen flamme aus dem busch. Und er saha, daß der busch mit feuer brannte, und ward doch nicht verzehret.

3. Und sprach : Jch will dahin, und besehen dis große gesicht, warum der busch nicht verbrennet.

4. Da aber der HErr sahe, daß er hinging zu sehen; rief ihn GOtt aus dem busch,.... (1797. 2. Mose 3, 2-4.)

Die gnade deß, der in dem busch wohnete, komme auf das haupt Josephs, (1779. 5. Mose 33, 16)

habt ihr nicht gelesen im buch Mosis bey dem busch, wie GOtt zu ihm sagte, (1797. Mark. 12, 26)

Daß aber die todten auferstehen, hat auch Moses gedeudet, by dem busch, (1797. Luk. 20, 37)

Und über vierzig jahre erschien ihm in der wüste auf dem berge Sina der engel des HErrn, in einer feuerflamme in busch. (1797. Apg. 7, 30)

den sandte GOtt zu einem obersten und erlöser, durch die hand des engels, der ihm erschiem im busch. (1797. Apg. 7, 35)

die Cansteinische Bibel は古典語原典の原文に忠実な訳文 (die dem Grundtext näher kommende Uebersetzung)⁽⁴⁹⁾ を目指した改訂の所産であるから、都合 9 例の Busch も改訂の対象のうちに含まれて、原語の語義に即したものに差し替えられていると期待されるのである。然るに Busch には改訂は及ぶこと

はなく、保持されているのであるから、Busch が laubiges gesträuch 或いは dornstrauch のうちの何れの意味を担っていると、解されているのかは、明らかにされていないままになっているのである。

VII Goethe と Schiller

先に Goethe と Schiller について、モーセに神が現われた件の Busch について報告を行った⁽⁵⁰⁾のであるが、今回新たな例証を追加することにしたい。

Johann Wolfgang Goethe (1749 — 1832) の 1 例は、Hermann und Dorothea⁽⁵¹⁾ (1797) の 5. Gesang : Polyhymnia Der Weltbürger の 236 行目で得られるものである。

o, wir anderen dürfen uns wohl mir jenen vergleichen,
Denen in ernster Stund' erschien im feurigen Busche
Gott der Herr ; auch uns erschien er in Wolken und Feuer.

1989 年刊の Goethe Wörterbuch⁽⁵²⁾ 第 2 巻においては、約 100 点のテキストから収集した凡そ 150 例の例証を踏まえて、Busch の語義を、(Laub-) Strauch, überwiegend in Pl u. kollektiven Sg im Sinne von Gebüsch, Buschgruppe,.... と説いているのである。してみると、先に報告した aus einem brennenden Busche 並びに今回の im feurigen Busche の Busch を有刺植物と見做してはいないと諒解されるのである。

Dichtung und Wahrheit において Goethe は、幼少の頃から生涯を通じて、Luther 訳聖書に親しんでいることを述べている。それ故聖書に関する記述も豊富で多岐に互っているのである。然るに der brennende, feurige Busch に関しては、刺の有無を初めとする具体的な形状について、一切取り上げていないのである。従って Goethe がその実像を如何に思い描いていたかは、誠に把握し難いところである。

Goethe に対して Friedrich Schiller (1759 — 1805) は、Universalhistorische Schriften のうちの立法者 Mose を論じている Die Sendung Moses⁽⁵³⁾ (1790) に

において、Busch に代えて Dornbusch を用いているのであって、これは、Busch を有刺と特定して、曖昧な表現を避けたからに他ならないのである。先に Dornbusch の 1 例を報告したのであるが、今回更に 1 例を追加する次第である。

Das Gespräch, welches er mit der Erscheinung in dem brennenden Dornbusch hält, legt uns die Zweifel vor, die er sich selbst aufgeworfen, und auch die Art und Weise wie er sich solche beantwortet hat.

die Cansteinische Bibel において確かめられる様に、当時出版されていた各種の Luther 訳改訂版においても、Busch が保持されていることは疑いないところである。Busch の語義は二様に解釈出来るので、Schiller は有刺という形状を重視して、これを明示するために、Dornbusch を用いたと諒解される。Schiller が他に先駆けて、Busch の語義を吟味して、適切な訳語を対応しているのは、正に特筆に値することである。

してみると、Die Jungfrau von Orleans⁽⁵⁴⁾ (1801) の序幕四場で、Johanna の独白のなかで現われる Busch は、Busch と記されているが、Dornbusch と見做すのが適切な解釈であると判断されるのである。

Denn der zu Mosen auf des Horefs Höhen
Im feurigen Busch sich flammend niederließ,

VIII 1912 年改訂の Luther 訳聖書

19 世紀に入っても、Luther 訳聖書の改訂版は、数多くの類書が刊行されたのである。そこで混乱した状況の下で、プロテスタント全教会が挙って承認出来る Luther 訳聖書の改訂版の完成と刊行が切実な問題となったのである。斯くしてドイツ各地区の聖書協会が協議を重ねた結果として、1892 年に第一回目、次いで 1912 年に第二回目の現代語改訂版が刊行されたのである。1892 年の改訂版は未見であるので、1912 年の改訂版⁽⁵⁵⁾における Busch につ

いて報告することにする。

先に 1912 年の新約の部の改訂について、die Cansteinische Bibel 及び 1546 年の版の Luther 訳原典の訳文と比較照合すると、語彙と統語論の諸事項に関する変更は控え目に行われていて、また文の構成についても、然したる差異は認められない程度に留められていると指摘⁽⁵⁶⁾したが、これはまた旧約の部の改訂についても、言うことが出来るのである。

そして Busch に関しては、旧約の s^{ne} に対応している 5 例と、新約の βάτος に対応している 4 例は、何れも保持されているのである。

2. Und der Engel des Herrn erschien ihm in einer feurigen Flamme aus dem Busch.
Und er sah, daß der Busch mit Feuer brannte und ward doch nicht verzehrt :

3. und sprach : Ich will dahin und beschauen dies große Gesicht, warum der Busch nicht verbrennt.

4. Da aber der Herr sah, daß er hinging, zu sehen, rief ihm Gott aus dem Busch....
(1912. 2. Mose 3, 2-4.)

Die Gnade des, der in dem Busch wohnte, komme auf das Haupt Josephs.... (1912. 5. Mose 33, 16)

habt ihr nicht gelesen im Buch Mose's bei dem Busch, (1912. Mark. 12, 26)

Daß aber die Toten auferstehen, hat auch Mose gedeutet bei dem Busch, (1912. Luk. 20, 37)

Und über vierzig Jahre erschien ihm in der Wüste an dem Berge Sinai der Engel des Herrn in einer Feuerflamme im Busch. (1912. Apg. 7, 30)

den sandte Gott zu einem Obersten und Erlöser durch die Hand des Engels, der ihm erschien im Busch. (1912. Apg. 7, 35)

IX Zürcher Bibel 改訂版

1931 年刊行の Zürcher Bibel 改訂版⁽⁵⁷⁾は、1907 年より 1931 年までの改訂の末、完成に至ったのである。

古典語原典に忠実な訳業を期した改訂⁽⁵⁸⁾の成果の一つとして、旧約と新

約の Busch は洩れなく Dornbusch に書き替えられているのであるから、遂に s^{ne} と βάτος 的確な訳語が対応されるに至ったのである。なお出エジプト記 3 章 2 節においては、s^{ne} は 2 例であるのに対して、Dornbusch は、1 例が書き加えられて、都合 3 例となっている。尤も 3 例の Dornbusch のうちの 2 例は、busch と記されているのである。

Zürcher Bibel 改訂版の完成と刊行が、Luther 訳原典の現代語に即した新しい改訂活動を促進した要因の一つとなることは、全く疑う余地がないと思われるのである。

2 Und der Engel des Herrn erschien ihm in einer Feuerflamme, die aus dem Dornbusch hervorschlug. Und als er hinsah, siehe, da brannte der Busch im Feuer, aber der Busch ward nicht verzehrt. 3 Da dachte Mose : Ich will doch hinüber gehen und diese wunderbare Erscheinung ansehen, warum der Dornbusch nicht verbrennt. 4 Und der Herr sah, dass er herüberkam, um nachzusehen. Und Gott rief aus dem Dornbusch zu.... (1931. 2. Mose 3, 2-4.)

dem Köstlichsten der Erde

und ihrer Fülle

und der Huld des,

der im Dornbusch wohnt.

Es komme auf das Haupt Josephs, auf den Scheitel des Gekrönten.

unter seinen Brüdern! (1931. 5. Mose 33, 16)

Was aber die Toten betrifft, dass sie auferweckt werden, habt ihr [denn] nicht gelesen im Busch Moses bei der Geschichte vom Dornbusch, (1931. Mark. 12, 26)

Dass aber die Toten auferweckt werden, hat auch Mose bei der Geschichte vom Dornbusch angedeutet, (1931. Luk. 20, 37)

Und als vierzig Jahre um waren, erschien ihm in der Wüste des Berges Sinai ein Engel in der Flamme eines brennenden Dornbusches. (1931. Apg. 7, 30)

Wer hat dich zum Gebieter und Richter eingesetzt ? diesen hat Gott als Gebieter und als Befreier gesandt unter dem Beistand des Engels, der ihm im Dornbusch erschienen war. (1931. Apg. 7, 35)

X 1956 年改訂の Luther 訳新約聖書と Die Bibel in Auswahl mit Erklärung (1961)

1946 年に西ドイツの各聖書協会は福音聖書協会に統合された。そして福音聖書協会は、Luther 訳原典の改訂版の完成と刊行を推進して行くのである。

改訂作業は先ず新約の部から着手されて、その成果として、1956 年に Luther 訳新約聖書現代語改訂版⁽⁵⁹⁾が、刊行されたのである。

1956 年の新約改訂版について、1912 年の改訂版更に die Cansteinische Bibel の場合と同様に、1546 年の版の Luther 訳原典の訳文を叩き台としている。そして文の構成に関しては、変更されている個所が増加しているのも、原典との隔たりが認められるのである。次に語彙と統語論の諸事項に関しても、数多くの点で改訂が加えられて、取り分け語彙の改訂は大幅なものであるのも、現代語の語法に近付いているのである。

斯かる改訂の一環として、4 例の Busch は、Dornbusch に改訂されているのである。

habt ihr nicht gelesen im Buch des Mose, wie Gott zu ihm bei dem Dornbusch sagte und sprach.... (1956. Mark. 12, 26)

Daß aber die Toten auferstehen, darauf hat auch Mose gedeutet bei dem Dornbusch, (1956. Luk. 20, 37)

Und nach vierzig Jahren erschien ihm in der Wüste an dem Berge Sinai der Engel des Herrn in einer Feuerflamme im Dornbusch. (1956. Apg. 7, 30)

den sandte Gott als einen Obersten und Enlöser durch die Hand des Engels, der ihm erschien im Dornbusch. (1956. Apg. 7, 35)

1961 年に Cansteinische Bibelanstalt から、Die Bibel in Auswahl mit Erklärungen が刊行された。

旧約と新約から主要な個所を抜粋して、一卷にまとめたもので、各個所毎に Pastor Dr. Kurt Zabel が解説を添えている。

旧約の訳文には 1912 年改訂の Luther 訳現代語版、新約の訳文には 1956

年改訂の Luther 訳現代語版の訳文が使用されているのであるから、旧約では Busch であるのに対して、新約では Dornbusch に書き替えられていて、異なる訳語が用いられているのである。本書では、旧約と新約との間で、訳語が統一されていない当時の状況が、如実に捉えられているのである。

XI 1964 年改訂の Luther 訳旧約聖書

Luther 訳原典の改訂の歩みは、1956 年に先ず新約の部が刊行されたのに続いて、1964 年に Luther 訳旧約聖書現代語改訂版⁽⁶⁰⁾が刊行されるに至ったのであって、これを以って Luther 訳旧新約聖書の改訂作業は完了することになったのである。これには Zürcher Bibel 改訂版の完成と刊行が、多大の影響を及ぼしたことは否定出来ない事実である。

なお、旧約外典の改訂の成果は、1970 年に公にされたのである。

1964 年の旧約改訂版についても、1912 年の改訂版並びに die Cansteinische Bibel の場合と同じく、1545 年の版の Luther 訳原典の訳文が叩き台となっているのである。そして文の構成に関しても、更に語彙と統語論の諸事項に関しても、改訂に当たっては、新約の改訂の場合と全く変りなく、現代語の用法と聖書学の研究の所産を踏まえて、作業を進めているのである。そして改訂の成果として、原典の訳文に修正された個所は多く、改訂の跡は歴然としている。とはいえ、それ丈に、平明な読み易い文章になっているのは確かである。

語彙の改訂は特に大幅に進められていて、5 例の Busch も Dornbusch に改訳されているのである。但し出エジプト記 3 章においては、都合 4 例の Dornbusch のうちの 3 例は、Busch と記されている。斯くして旧約と新約の両書において、語義が曖昧な Busch は、明解な訳語である Dornbusch に書き替えられているのである。

Und der Engel der Herrn erschien ihm in einer feurigen Flamme aus dem Dornbusch. Und er sah, daß der Busch im Feuer brannte und doch nicht verzehrt wurde. Da sprach er : Ich will hingehen und die wundersame Erscheinung besehen, warum der Busch nicht

verbrennt. Als aber der Herr sah, daß er hinging, um zu sehen, rief Gott ihn aus dem Busch und sprach.... (1964. 2. Mose 3, 2-4.)

Die Gnade dessen, der in dem Dornbusch wohnte, komme auf das Haupt Josephs, (1964. 5. Mose 33, 16)

XII 1975 年改訂の Luther 訳新約聖書と Canstein-Bibel (1978)

1956 年刊行の新約の部及び 1964 年刊行の旧約の部は、Luther 訳聖書改訂作業の結実として、極めて重要な意義をもつものである。

併し乍ら、古典語原典の正確な翻訳であるとは言い難いと指摘された⁽⁶¹⁾ので、改めて再度改訂が計画されて、新約の部から実行に移されたのである。

斯くして、1975 年に新たな Luther 訳新約聖書改訂版⁽⁶²⁾が刊行されたのである。本書はギリシア語原典の原文に極めて忠実にして、且つ明解な訳業である。然るに文の構成と語彙に関して、Luther 訳原典の原文との関連が全く認められない表現が頻出しているのであるから、全く新しい訳業と見做し得る程なのである。

改訂が過度に進められているので、Luther 訳原典の趣を伝えているとは言い難いという厳しい批判が相次いだ⁽⁶³⁾ために、後に続く予定であった旧約の部の改訂は見送られて、いま一度 Luther 訳原典を叩き台にして、新約の部の改訂が行われることになったのである。

本書はギリシア語原典の原文に密着した訳業であるから、本書でも Βάτος に Dornbusch が対応していることは、格別の重みを感じられるのである。

Habt ihr nicht im Buch der Mose beim Schriftwort vom Dornbusch gelesen, wie Gott zu ihm gesagt hat.... (1975. Mark. 12, 26)

Daß aber die Toten auferstehen, darauf hat auch Mose mit dem Schriftwort vom Dornbusch hingewiesen, (1975. Luk. 20, 37)

Und nach vierzig Jahren erschien ihm in der Wüste am Berge Sinai ein Engel in einer Feuerflamme im Dornbusch. (1975. Apg. 7, 30)

den sandte Gott als Anführer und Retter durch den Engel, der ihm im Dornbusch erschienen war. (1975. Apg. 7, 35)

1978年にDeutsche Bibelstiftungから、Canstein-Bibelが刊行された。本書の正式な書名は、Die Bibel nach der Übersetzung Martin Luthers Revision 1964 / 1975であって、旧約は1964年改訂のLuther訳、新約は1975年改訂のLuther訳の訳文を収めている。Canstein-Bibelと題された書名はCanstein男爵の肖像画と共にカバーに印されているのである。

本書は1961年にCansteinische Bibelanstaltから刊行されたDie Bibel in Auswahl mit Erklärungenの流れを汲むものである。両書に共通して、旧約と新約は改訂された時期が異なっているのであるが、Canstein-Bibelの方が旧約と新約の文体の相違が際立っていることが確かめられるのである。

XIII 1984年改訂のLuther訳新約聖書

1984年に最も新しいLuther訳新約聖書改訂版⁽⁶⁴⁾が刊行された。1975年版のLuther訳新約改訂版に向けられた厳しい批判を踏まえて実施された改訂作業の所産である。

併し乍ら、文の構成と語彙に関しては、1975年の綿密な改訂作業の成果を大幅に活用しているのである。とはいえ、1546年のLuther訳原典の訳文を叩き台として、改訂を行っているのであるから、Luther訳原典とは隔たりが出来ているにも拘わらず、Luther訳の現代語改訂版であることは明らかに認められるのである。

本書においても、4例のDornbuschは決定訳として、定着していることが確信されるのである。

habt ihr nicht gelesen im Buch des Mose, bei dem Dornbusch, wie Gott zu ihm sagte und sprach.... (1984. Mark. 12, 26)

Daß aber die Toten auferstehen, darauf hat auch Mose gedeutet beim Dornbusch, (1984. Luk. 20, 37)

Und nach vierzig Jahren erschien ihm in der Wüste am Berge Sinai ein Engel in einer Feuerflamme im Dornbusch. (1984. Apg. 7, 30)

den sandte Gott als Anführer und Retter durch den Engel, der ihm im Dornbusch erschienen war. (1984. Apg. 7, 35)

XIV Altes und Neues Testament in neuer Einheitsübersetzung

新旧両派の聖書協会は共同して、統一訳聖書の作成に当たって、1972年に新約の部、1974年に旧約の部を刊行したのである。

統一訳聖書は、画期的な訳業として、高く評価されているのである。そして、旧約の5例の s^{ne} と新約の4例の βάτοςには、漏れなく Dornbusch を対応しているのである。

Dort erschien ihm der Engel des Herrn in einer Flamme, die aus einem Dornbusch emporschlug. Er schaute hin : Da brannte der Dornbusch und verbrannte doch nicht. Mose sagte : Ich will dorthin gehen und mir die seltsame Erscheinung ansehen. Warum verbrennt denn der Dornbusch nicht?

Als der Herr sah, daß Mose näher kam, um sich das anzusehen, rief Gott aus dem Dornbusch zu.... (1976. 2. Mose 2-4.)

O gnade dessen, der im Dornbusch wohnt, komm herab auf Josefs Haupt, (1976. 5. Mose 33, 16)

Daß aber die Toten auferweckt werden, habt ihr das nicht im Buch des Mose in der Geschichte vom Dornbusch gelesen, (1976. Mark. 12, 26)

Daß aber die Toten auferweckt werden, hat schon Mose durch die Stelle vom Dornbusch angedeutet, (1976. Luk, 20, 37)

Als viezig Jahre vergangen waren, erschien ihm in der Wüste beim Berg Sinai ein Engel im Feuer eines brennenden Dornbusches (1976. Apg. 7, 30)

ihn hat Gott als Führer und Retter gesandt durch die Hand des Engels, der ihm im Dornbusch erschien, (1976. Apg. 7, 35)

今回の調査に使用した統一訳聖書⁽⁶⁵⁾は、全5冊に及ぶ大冊である。理解を深める助けとなる様、種々の参考資料を収めている。カラー写真及び挿絵も豊富で、総数は3500枚である。

そこで出エジプト記3章においては、シナイ山麓にある聖カタリナ修道院(Katharinenkloster)の礼拝堂の前に繁っているDornbuschのカラー写真が添えられているのである。

修道院のなかで最も神聖な部分は、嘗てはここに、Dornbuschが生えていて、その中にモーセに神が現われたと伝えられている至聖所(Kapelle des brennenden Dornbuschs)である。ここには、モーセに倣って、靴を脱いで入ることになっているのである。

Katharinenklosterという名称は、ローマ時代に殉教した十四救難聖人の一人であるKatharina von Alexandriaの遺品がここに移されたことに因んだものであって、14世紀以降に用いられることになったのである⁽⁶⁶⁾。それ以前は、Dornbuschkloster 或いはSinaiklosterと呼ばれていたと推測されるのである。

さて出エジプト記に添えられているDornbuschのカラー写真は、日の光を反射しているので映りが悪い上に低木全体を写したもので、細部は判然としない。従って、被写体が有刺であるか否かは、最大の関心事であっても、これを確かめることは叶わないのである。

sine 及び βάτος に Dornbusch が対応することを実証する証しとして、写真が載せられているにも拘わらず、有刺であることが明示されていない点は、この Dornbusch について学名が明らかにされていない点と共に、誠に口惜しい次第である。

平成15年8月にTBSテレビで、世界遺産の特集番組の一環として、エジプト 聖カタリナ修道院が放映された。併し乍ら期待に反して、Dornbusch についての詳しい情報は、得られなかったのである。

平成18年4月に至って、NHKテレビで、ビザンチン帝国についての特集番組が放映されて、その第二回目は、砂漠の修道院 ―生き残りの戦略― であって、聖エカテリニ修道院が建設された経緯とイスラム教徒と融和に努めて来た歩みが報道されたのである。

4世紀に、Konstantin der Großeの母で当時80才であったHelenaは、野外

に茂っている der brennende Drnbusch を屋内に囲うことにして、初の礼拝堂を建てたのであった。der brennende Dornbusch は後に屋外の現在の場所に移植されることになって、Dornbusch があった所には、テーブルが置かれているのである。

そして6世紀に入って、Justinian 皇帝は礼拝堂を庇護するために、その周りに修道院を建てたのである。

この旨の解説に続けて、礼拝堂の屋根まで繁っている Dornbusch の全体と各部位が鮮明に映し出されたのである。そして、幾本もの蔓に多数の刺が生えているのを、明瞭に確かめることが出来たのであって、正しく Dornbusch であるのである。

この Dornbusch は、テレビ放送では、TBS と NHK の共方で、柴と呼ばれていたのである。これは、口語訳聖書⁽⁶⁷⁾、聖書・新改訂⁽⁶⁸⁾、聖書・新共同訳⁽⁶⁹⁾において、s^{ne} 及び βάτος を柴と訳出していることに依るものである。有刺植物に柴を当てることは、「茨の灌木 (《柴》)⁽⁷⁰⁾」でも確かめられるのであるが、この様に対応できる根拠を未だに明らかにし兼ねている次第である。

新旧両派の聖書教会は、一致して、Katharinenkloster の Dornbusch を、s^{ne} 並びに βάτος に対応出来るものと見做しているのである。この Dornbusch は、古くから当地に自生していて、der brennende Dornbusch としてキリスト教徒に崇められて来た点に加えて、紛れもなく有刺である点で、s^{ne} であると解することが出来る条件を充足しているのである。これを踏まえると、聖書協会の見解は妥当なものであると諒解されるのである。然るにこれに対して、聖書考古学者の Werner Keller⁽⁷¹⁾ 並びに聖書植物学者の Michael Zohary⁽⁷²⁾ は、見解を異にしているのである。各々の見解も注目に値するものであるので、これに就いては、稿を新たにして検討することにした。

そして、s^{ne} と βάτος のドイツ語訳の例証についても、18世紀以降のドイツ語訳聖書で、今回取り上げなかったもの、例えば Mengebibel や Die Gute Nachricht、及び文学作品、例えば Klopstock の Messias や Th. Mann の短編 das Gesetz の調査に基いて、報告する予定である。

学習院大学名誉教授 岩淵達治先生の御教示に依って、この一連の研究調

査に取り組むことになったのである。先生の御指導に対して衷心からの感謝の念を捧げるために、更に研究の進捗に努めて行きたいと念願している。

昭和 58 年に塾創立 125 年を記念して、法学部は記念論文集を刊行した。刊行の趣旨に賛同して、慶んで小論を捧げたのであった。そしてその際に、創立 150 年に当たっても、一篇を捧げたいと切望した次第であった。此の度、幸いにして永年の願いを実現することが叶えられて、胸中は真に晴れやかである。

註

- (1) 拙論「旧約の *šene* と新約の *βάρως* のドイツ語訳について —— Luther と Zwingli の例証に基いて ——」教養論叢 第 116 号 (平成 14 年 1 月)。
- (2) 旧約のヘブライ語原典の調査には、Das Alte Testament hebräisch — deutsch Biblia Hebraica. 16., verbesserte Aufl. 1971. を使用している。
ヘブライ語の表記には、ヘブライ文字の使用は控えて、音写記号 (Transliteration) で示すことにしている。
音写記号に拠る表示については、名尾耕作氏の旧約ヘブル語辞典の表示法に倣っているのである。
名尾耕作：旧約聖書ヘブル語大辞典：付・アラム語辞典 1982。
- (3) 新約のギリシア語原典の調査には、E. Nestle et K. Aland : Novum testamentum graece. 25. Aufl. 1967. を使用している。
- (4) Septuaginta Id est Vetus Testamentum graece iuxta LXX interpretes. edidit A. Rahlfsi verkleinerte Ausgabe in einem Band 1979.
因みに七十人 (詳しくは七十二人) の学者が、旧約の冒頭のモーセ五書 (Pentateuch) の訳業に携わっているのは確かであるが、残る他の文書の訳出には、更に多くの学者が係っているのである。(Geschichte des Septuaginta-Textes. In : Septuaginta 1979.)
- (5) O. Weber : Grundriß der Bibelkunde. 8. Aufl. 1965. 2. Kap. 4. b.
- (6) Vulgata : Biblia Sacra iuxta Vulgatam Versionem. adiuvantibus B. Fischer osb, J. Gribomont obs. H. F. D. Sparks, W. Thiele. 3., verbesserte Aufl. 1983.
- (7) 日本基督教協議会文書事業部・キリスト教大辞典編集委員会：キリスト教大辞典 改訂新版 1985. ウルガタの項。
- (8) Erasmus 編纂のギリシア語新約聖書の調査には、Erasmus von Rotterdam : Novum Instrumentum. Faksimile-Neudruck [d.Ausg.] Basel 1516 mit einer historischen, textkri-

tischen und bibliographischen Einleitung von Heing Holeczek 1986. を使用している。

本書の表題は、第二版から Novum Testamentum に改められている。

- (9) Die Entstehung des Novum Instrumentum des Erasmus von Rotterdam von 1516. 3. C. In :
Novum Instrumentum Faksimile-Neudruck [d. Ausg.] Basel 1516. 1986.
- (10) Fr. Tschirch : Geschichte der deutschen Sprache. II. 2., verbesserte und vermehrte Aufl.
1975. 35. E. Die sprachlichen Wirkungen der Bibelübersetzung Luthers.
- (11) 旧新約全書が刊行された月は詳らかではないので、Hans Volz の推定に拠る。(Die
Bibel in Einzelausgaben. In : Martin Luthers deutsche Bibel 1978.)
- (12) Luther 訳原典の調査には、D. Martin Luthers Werke Kritische Gesamtausgabe (Weimarer
Ausgabe). Die Deutsche Bibel Bd. 6 — 12. Weimar 1919 — 1960. を使用している。
Bd. 6, 7 が新約正典、Bd. 8, 9 / I, 9 / II, 10 / I, 10 / II, 11 / I, 11 / II の 7 巻が旧約正典、
そして Bd. 12 が旧約外典を収めている。
- (13) Predigten über das 2. Buch Mose. 1524 — 27. In : D. Martin Luthers Werke Kritische
Gesamtausgabe (Weimarer Ausgabe) Bd. 16 Weimar 1904.
- (14) Die Schmalkaldischen Artikel (1573 / 38). In : D. Martin Luthers Werke Kritische
Gesamtausgabe (Weimarer Ausgabe) Bd. 50 Weimar 1914.
- (15) Zürcher Bibel の調査には、Die Zürcher Bibel von 1531. 1983. を使用している。本
書は、1531 年に初めて挿絵が添えられて刊行された Zürcher Bibel の縮写覆刻版であ
って、Huldrych Zwingli の生誕 500 年を記念して出版されたものである。
本書の扉には、Zwingli の訳業の基本方針が、簡潔に記されているのである。
Die gantze Bibel der vrsprünglichē Ebraischen vnd Griechischen waarheynt nach / auff's aller
trewlichet verteüschet.
- (16) O. Weber : Grundriß der Biblekunde. 8. Aufl. 1965, 2. 4. d) *Deutsche Bibeln*.
- (17) L. Koehler / W. Baumgartner : Hebräisches und Aramäisches Lexikon zum Alten
Testament. 3. Aufl. neu bearbeitet von W. Baumgartner, J. J. Stamm und B. Hartmann unter
Mitarbeit von Ze'ev Ben-Hayyim, E. Y. Kutscher und Ph. Reymond Bd. I. 1995, s^{ne} の項。
- (18) F. Brown / S. R. Driver / C. A. Briggs : A Hebrew and English Lexikon of the Old
Testament reprinted with corrections. 1995, s^{ne} の項。
- (19) W. Bauer : Griechisch-deutsches Wörterbuch zu den Schriften des Neuen Testaments und
der frühchristlichen Literatur. 6., völlig neu bearbeitete Aufl. hg. von K. Aland und B. Aland
1988, Βάτος の項。
H. Balz / G. Schneider : Exegetisches Wörterbuch zum Neuen Testament. Bd. I. 1980,
Βάτος の項。

- (20) H. Menge : Menge-Güthling Enzyklopädisches Wörterbuch der lateinischen und deutschen Sprache. Teil I : Lateinisch-Deutsch, unter Berücksichtigung der Etymologie. 12. Aufl. 1960, rubus の項。
- (21) P. G. W. Glare : Oxford Latin Dictionary. Combined Edition first published 1982, Reprinted 1983, rubus の項。
- (22) O. Güthling : Menge-Güthling Enzyklopädisches Wörterbuch der lateinischen und deutschen Sprache. Teil II : Deutsch-Lateinisch, 6. Aufl. 1959, Dornbusch, Dornstrach の項。
- (23) Duden : Deutsches Universalwörterbuch. 1983, Busch の項。
- (24) Matthias Lexer : Mittelhochdeutsches Wörterbuch. Nachdruck der Ausgabe Leipzig 1872 — 1878, mit einer Einleitung von Kurt Gärtner Bd. I. 1992, busch, bosch の項。
- (25) Quellen und hilfsmittel. In : Matthias Lexers Mittelhochdeutsches Wörterbuch. Bd. I. 1992.
- (26) J. Ch. Adelung : Grammatisch-kritisches Wörterbuch der Hochdeutschen Mundart. Theil I. von A — E. 2., vermehrte und verbesserte Ausg. 1793, Busch の項。
- (27) J. H. Campe : Wörterbuch der Deutschen Sprache. Theil I. A bis E. 1807, Busch の項。
- (28) J. Grimm / W. Grimm : Deutsches Wörterbuch. Bd. II. Biermörder — D 1860, BUSCH の項。
- (29) 拙論「Luther 訳聖書における Busch について —— Luther 訳原典と現代語改訂版に基いて —— (五)」教養論叢 第 103 号 (平成 8 年 9 月) 12 — 24 頁。
- (30) Deutsches Wörterbuch von J. Grimm und W. Grimm Quellenverzeichnis. bearbeitet in der Arbeitsstelle Berlin von A. Huber, H. Petermann, G. Richter, H. Schmidt, R. Schmidt, U. Schröter und in der Arbeitsstelle Göttingen von U. Horn 1971, Keisersberg, Joh. Geiler. v. の項。
- (31) D. Sanders : Wörterbuch der deutschen Sprache mit Belegen von Luther bis auf die Gegenwart. Bd. I. A — K. 1860, Busch の項。
- (32) Ph. Dietz : Wörterbuch zu Dr. Martin Luthers Deutschen Schriften. A — Hals 2., unveränderte Aufl. 1961 (Reprografischer Nachdruck der Ausgabe Leipzig 1970 — 72), Busch の項。
- (33) M. Heyne : Deutsches Wörterbuch. Bd. I. A — G. 1890, Busch の項。
- (34) Fr. L. K. Weigand : Deutsches Wörterbuch. 5. Aufl. in der neusten für Deutschland, Österreich und die Schweiz gültigen amtlichen Rechtschreibung nach der Verfassers Tode vollständig neu bearbeitet von K. v. Bahder · H. Hirt · K. Kant hrsg. von H. Hirt Bd. I. A bis K. 1909, Busch の項。

- (35) A. Götze : Trübners Deutsches Wörterbuch. Bd. I A — B. 1939, Busch の項。
- (36) Frühneuhochdeutsches Wörterbuch. hrsg. von U. Goebel und O. Reichmann in Verbindung mit dem Institut für deutsche Sprache begr. von R. R. Anderson · U. Goebel · O. Reichmann Bd. 4 · Lfg. 3, brechen — pythagorisch bearbeitet von G. Schildt 2001, busch, bosch の項。
- (37) 註 (32) に前掲。
- (38) H. Paul : Deutsches Wörterbuch. I. Aufl. 1897, Busch の項。
- (39) H. Paul : Deutsches Wörterbuch. bearbeitet von A. Schirmer 4., bearbeitete Aufl. 1960, Busch の項。
- (40) H. Paul : Deutsches Wörterbuch. bearbeitet von W. Betz 7., durchgesehene Aufl. 1976, Busch の項。
- (41) H. Paul : Deutsches Wörterbuch. 9., vollständig neu bearbeitete Aufl. von H. Henne und G. Objartel unter Mitarbeit von H. Kömper-Jensen 1992, Busch の項。
- (42) H. Paul : Deutsches Wörterbuch. 10., überarbeitete und erweiterte Aufl. von H. Henne, H. Kämper und G. Objartel 2002, Busch の項。
- (43) die Cansteinische Bibel の調査には、Die Bibel, oder die ganze Heilige Schrift des alten und neuen Testaments, nach der deutschen Uebersetzung D. Martin Luthers. Die CI Auflage. HALLE, in der Cansteinischen Bibel // Anstalt, 1797. を使用している。
本書には、旧約の正典と外典及び新約正典に加えて、Vorbericht と Aug. Herm. Franke が執筆した kurzer Unterricht, wie man die heilige Schrift zu seiner wahren Erbauung lesen solle の 2 編が収められている。Vorbericht は、die Cansteinische Bibel が刊行されるに至った契機と改良の方針、そして刊行から約半世紀の歩みについて述べているのである。
- (44) 拙論「Luther 訳聖書における Busch について —— Luther 訳原典と現代語改訂版に基いて —— (三)」教養論叢 第 99 号 (平成 7 年 3 月)。
- (45) Vorbericht. In : die Cansteinische Bibel 101. Aufl. 1797.
- (46) 拙論「Luther 訳聖書における Busch について —— Luther 訳原典と現代語改訂版に基いて —— (七) — (十二)」。
(七) 教養論叢 第 107 号 (平成 9 年 12 月)。(八) 教養論叢 第 109 号 (平成 10 年 6 月)。
(九) 教養論叢 第 111 号 (平成 12 年 1 月)。(十) 教養論叢 第 112 号 (平成 12 年 2 月)。
(十一) 教養論叢 第 113 号 (平成 12 年 3 月)。(十二) 教養論叢 第 114 号 (平成

- 13年2月)。
- (47) 塩谷 鏡：ルター聖書・抜粋・訳註 1983. III ドイツ語聖書翻訳の歩み 4 ルター以後——普及と改訂。
- (48) Hans Volz : Verbreitung und Wirkung. In : Martin Luthers deutsche Bibel 1978.
- (49) 註 (45) で前述した Vorbericht。
- (50) 註 (46) で前述した拙論「Luther 訳聖書における Busch について —— Luther 訳原典と現代語改訂版に基いて —— (十二)」。
- (51) Hermann und Dorothea. In : Goethes Werke Hamburger Ausgabe in 14 Bänden 2. Band Gedichte und Epen 3. Aufl. 1956.
- (52) Goethe Wörterbuch. hrsg. von der Akademie der Wissenschaften der DDR, der Akademie der Wissenschaften in Göttingen und der Heidelberger Akademie der Wissenschaften 2. Band 1989, Busch の項。
- (53) Die Sendung Moses. In : Schillers Werke Nationalausgabe 17. Band Historische Schriften 1. Teil 1970.
- (54) Die Jungfrau von Orleans. In : Schillers Werke Nationalausgabe 9. Band 1948.
- (55) Die Bibel oder die ganze Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments nach der deutschen Übersetzung D. Martin Luthers. Nach dem 1912 vom Deutschen Evangelischen Kirchenausschuß genehmigten Text.
- (56) 註 (44) と同じである。
- (57) Zürcher Bibel. nach der Übersetzung Ulrich Zwinglis revidierter Text 1931. 2. Aufl. 1942.
- (58) Geleitwort / In : Zürcher Bibel 2. Aufl. 1942.
- (59) Die Bibel oder die ganze Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments. Nach der deutschen Übersetzung Martin Luthers. 1967. (旧約の部は 1964 年改訂、新約の部は 1956 年改訂の訳文を収めている)
- (60) 註 (59) と同じである。
- (61) Fr. Tschirch : Die Sprache der Bibelübersetzung Luthers heute — Eine Apologie der Bibelrevision von 1956 / 64 durch Besinnung auf ihre sprachgeschichtlichen Voraussetzungen. In : Spiegelungen Untersuchungen vom Grenzrain zwischen Germanistik und Theologie 1966.
- (62) Das Neue Testament. nach der Übersetzung Martin Luthers Revidierter Text 1975 1976.
- (63) 註 (47) と同じである。
- (64) Die Bibel mit Apokryphen. nach der Übersetzung Martin Luthers 1985. (旧約の部は

1964 年改訂、旧約外典の部は 1970 年改訂、新約の部は 1984 年改訂の訳文を収めている)

- (65) Die Bibel Altes und Neues Testament in neuer Einheitsübersetzung. 5 Bände mit 3500 Farbbildern hrsg. Sr. Dr. Mirjam Prager OSB. und Univ. - Doz. Dr. Günter Stemberger 4. Aufl. 1976.
- (66) Brockhaus die Enzyklopädie in 24 Bänden. 20., überarbeitete und aktualisierte Aufl. 11. Band 1997, Katharinenkloster, Dornbuschkloster, Sinaikloster の項。
- (67) 日本聖書協会：聖書 1961。
- (68) 日本聖書刊行会：聖書・新改訂 1971。
- (69) 日本聖書協会：聖書・新共同訳 1987。
- (70) 木幡藤子：出エジプト記序論 1—18 章モーセの召命。新共同 旧約聖書注解 1 1996 に収録。
- (71) Werner Keller : Und die Bibel hat doch recht. 1989, Vom Nil zu Jordan Am Berg Moses.
- (72) Michael Zohary : Pflanzen der Bibel. 3., unveränderte Aufl. 1995, 6 Wüstenpflanzen Sennabusch. (本書は Plants of the Bibel. 1982 のドイツ語版である)